

見て学ぶ 一般検査学アトラス 外観検査から顕微鏡検査まで

宿谷賢一(編)

神戸常盤大教授/学科長・医療検査学

坂本秀生

一般検査学領域における画像の宝庫

『見て学ぶ 一般検査学アトラス—外観検査から顕微鏡検査まで』を手にした際、鮮明な画像が整然と満載された本が世に出る喜びを感じた。手に取っていただければ実感できるが、本書には1,203枚もの豊富な画像が鮮明に掲載され、それぞれの色合いが極めて「本物」に近いからである。

一般検査では尿の外観観察から始まり、尿沈渣観察として尿中成分の判別が重要である。教科書などの成書で外観の表現として「乳白色～白濁」と記載されることもあるが、初学者や慣れない者には、どのような色かイメージし難い。本書は一般検査業務の流れに沿い、採尿カップ上部から撮影した多様な外観写真がまるでアートの作品のように掲載され、それぞれの色調や特徴が画像と共に簡潔に説明されている。

一般検査の醍醐味と奥深さは尿沈渣観察であり、沈渣がどのような過程を経て尿中に出現するか、腎臓を解剖学的に理解した上で組織的構造までイメージできると、よりの確に判断可能である。本書は腎臓をマクロからミクロまで画像付きで解説しており、顕微鏡を通して腎機能を俯瞰的に理解するにも役立つ。

尿沈渣で観察する成分は赤血球、白血球、大食細胞、複数の上皮細胞や各種細胞、円柱、結晶、微生物・寄生虫、その他の成分など多種多様である。本書ではそれらの重要性と有用性を解説するとともに、多くのページを割いてアトラスと呼ぶにふさわしく、精細で実物に極めて近い色調の写真を多数掲載している。また、一般検査業務として髄液・胸水・腹水・関節液などの穿刺液やCAPD 排液検査、寄生虫や媒介動物の観察、結石

検査なども含まれるが、依頼頻度が低い、もしくは外注検査に出している施設もあろう。本書にはそのような内容も掲載しており、本書一冊を通し、一般検査全般の概要や方法・鑑別まで網羅されていることも特徴である。

本書は索引から画像の掲載ページも参照可能であることが特徴で、画像辞典のように使用も可能だ。索引に加え、「尿の外観検査」では色調と原因に対応した図番号、「尿沈渣検査」では成分名と意義に対応した図番号が表形式で一覧できるように掲載されており、解説と呼応した画像検索が容易である。一覧が掲載されない解説文中では、対象となる画像の解説と共に括弧内に画像番号を提示し、目的画像を参照しやすい。序文にて編集者が述べているように、解説文は最小限にとどめた「見て学ぶ」教本とのコンセプトが随所に活きている。

本物を見たことがなくとも、多数の鮮明な画像が掲載された本書を通して「見て学ぶ」ことが可能である。巻末には画像から判断が行えるか確認できるよう、チェック問題も設けてあり、一般検査に携わって間もない臨床検査技師、または臨床検査技師をめざす学生にも有用であり、一般検査学領域では随一の本として推薦する。



●B5/頁 240/2024 年
定価：5,940 円
(本体 5,400 円＋税 10%)
[ISBN978-4-260-05663-2]
医学書院 刊